

5 領域	目標	支援方法
健康・生活	(整理整頓) ・使用した物を片付けたり、整理したりする事が出来るようになる。 ・一か所にまとめて管理する事が出来るようになる。 ・帰宅時等に自身の持ち物の確認が出来るようになる。	・整理整頓をするタイミングを事前に知る時間を設ける。 ・一人ひとり専用の荷物の置き場を設置する。 ・帰宅時、降車等の際に自身の持ち物の確認をするよう声掛けを行っていく。
	(衛生管理) ・手洗い、うがい、マスク着用等、日常的に行える予防について理解する。	・手洗いやうがい等を行うタイミングを1日のスケジュールの中で視覚的に提示、または声掛けをする事で習慣化と意識づけを行っていく。
	(時間管理) ・1日のスケジュールを把握し、スケジュールに沿って行動する事が出来るようになる。 ・優先的に行うべき事を理解し、計画的に行動する事で、余裕を持って行動する事が出来るようになる。	・時計やスケジュール表を視覚的に提示したり、時間の経過を知らせたりしながら、何をすべきか自身で考える時間を設けていく。
	(食育/調理) ・食材や調理道具の安全な使い方や正しい扱い方について理解する事が出来るようになる。 ・生産者や食材への感謝の気持ちを育て、環境へ配慮した無駄のない食事を伝える。	・調理イベント、お買い物等を行う中で、様々な食材、調理道具をスタッフと共に実際に使用し、取り扱い方法を学ぶ中で、栄養面やフードロス等に関する食育の教育を行っていく。
運動・感覚	(基礎体力) ・スポーツや遊びの中で、運動を楽しむ事が出来るようになり、年齢に合った筋力、体力を身に付ける。	・スポーツイベントを通して、楽しく運動をする中で、運動への苦手意識を少なくしていく。また、運動をすることにより筋力や体力が身につくようにしていく。
	(粗大運動) ・走る、投げる等の全身を使った動きをスムーズに行う事が出来るようになる。	・作業療法士を中心として、運動に必要なバランス感覚やリズム感を刺激していく支援を行う。
	(微細運動) ・指先を使った細かな作業に慣れる。 ・時間のかかる作業等を行う中で、集中力、忍耐力を高める	・工作イベント、書道等を通して、楽しみながら指先を使った細かい作業に慣れ、集中力、忍耐力を高めていく。
認知・行動	(思考力) ・物事を順序だて、道筋を立てて考える事が出来るようになる。 ・あらゆる可能性を加味し、その場に適した考え、行動が出来るようになる。 ・他者の意見を考慮し総合的に考える事が出来るようになる。	・プログラミング、学習等を通して、物事を順序立てて考えることができるようにしていく。グループ活動を通して、相手の意見を踏まえた自身の考えが持てるようにしていく。
	(表現力) ・自身の思考や感情を様々な形で表現する事が出来るようになる。 ・相手に伝わるように表現する能力を身に付ける。 ・場や状況、他者に合った適切な表現方法が出来るようになる。	・普段の活動の中で、自身の考え、気持ちが表現しやすい場を設け、無理なく自然と表現できるようしていく。 また、児童同士のコミュニケーションの場に置いても、相手の気持ちや、周囲の状況を考え、行動、発言が出来るよう助言、声掛けを随時行っていく。
	(判断力) ・選択肢の中から、場や状況を考慮し、自分自身に合った選択をする事が出来るようになる。 ・自分の選択や決定に責任を持つ事が出来るようになる。	・イベント、遊び等の中で様々な選択肢を与え、自身で考え選択することができる場を多く作り、自身が選択した事柄に関しては最後まで責任をもって行動するよう声掛けを行っていく。
	(解決行動) ・問題を解決する為に、自身で出来ることを考える事が出来るようになる。 ・問題を解決する為に、周囲の人に頼ったり、協力を求める等、問題解決に向け行動することが出来るようになる。	・活動の中で、困ったことがあった際には、すぐに手を差し伸べるのではなく、自身で問題解決に向け考える時間を与え、その後、声掛け、助言等を行い、問題解決の糸口を与え少しずつ自身で問題を解決できるよう支援していく。
言語・コミュニケーション	(語彙) ・名詞や動詞、形容詞等、様々な言葉の種類を知る。 ・様々な言葉を使って会話をする事が出来るようになる。	・語彙や言い回しの意味について調べたり、活動の中でスタッフと一緒に使用したりしながら支援していく。
	(聞く/話す) ・相手の話を最後まで聞き、内容を理解する事が出来るようになる。 ・自分の思いや考えを言葉で伝える事が出来るようになる。 ・相手を不快にさせない伝え方が出来るようになる。	・話を最後まで聞くことの大切さを普段の活動の中から伝えるようにしていく。会話の内容にあった受け答えが出来ていなかった場合には、スタッフと共に振り返る時間を設ける。 ・相手に不快感を与える伝え方になってしまった場合には、随時声掛けを行い、どのように言い伝えるべきか、事例をあげて説明をしていく。
	(受容) ・自分とは違った意見を持つ人の主張を最後まで聞く事が出来るようになる。 ・他者と自身の主張や思いの違いを受け止めながら、適度に譲歩する事が出来るようになる。	・他者の意見を優先したり、賛成したりする事を活動の中で要求しながら、受容的な考え、行動を養っていき、他者に合わせて意見を変える事ができた際には声掛けをし、本人が気づけるようにする。
	(推察) ・相手が考え、感情をを読み取る事が出来るようになる。 ・場の雰囲気や状況を察する事が出来るようになる。	・普段の活動の中から、他者の態度の変化や表情を気に掛けるよう心掛ける事を促し、実際に他者と触れ合う中で他者の気持ち、場の雰囲気を感知取ることを学んで行く場を設けていく。
人間関係・社会性	(規範意識) ・場のルールを理解し、守ることが出来るようになる。 ・周囲がルールを守っていない場合でもルールを守り、他者に対して注意が出来るようになる。	・事業所や外出先でのルールについて事前に確認する時間を設ける。 ルールを守る事の大切さ、ルールを守らなかった時の危険性等を具体例をあげて説明する場を設ける。
	(協調性) ・他者と力を合わせて活動に取り組む事が出来るようになる。 ・協力的な態度や振舞いを理解し、行動する事が出来るようになる。	・イベント等を通してグループ活動やペアになって活動しながら、他者との関わりを経験する場を設ける。
	(役割理解) ・自身の役割を理解し、行動に移す事が出来るようになる。 ・他者から求められている役割を察し、行動に移す事が出来るようになる。	・イベント等を通して、グループのリーダーとしての役割、またはリーダー以外の与えられた役割を繰り返し経験させながら、年齢相応に求められる判断力や責任能力を養っていく。
	(関係調整) ・他者との関係を良好な状態に維持するよう心がける。 ・他者と衝突した際には、自身で解決出来るようになる。	・普段の活動の中で他者と意見が衝突する場面には適度にスタッフが仲介し解決に向けて助言をしていく。